

●国際シンポジウムの成果——日米・台湾の研究者が一堂に会して白熱の論議。  
●原住民自らが切り開く新たな研究の地平と、蓄積された豊富な成果の実り多い対話。

# 台湾原住民研究 日本と台湾における回顧と展望

【台湾原住民研究 別冊2】

台湾原住民研究シンポジウム実行委員会編

二〇〇五年（平成一七年）三月二六日、二七日の両日、東京府中の東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所を会場にして国際シンポジウム「台湾原住民研究・日本と台湾における回顧と展望」が開催されました。一日間にわたって、記念講演と特別講演、九件の研究報告、それぞれのコメントと質疑応答、そして総合討論などが行われました。海外からの招待者は、台湾が六名、アメリカが二名で、そのほかに台湾留学中の日本人大学院生二名が参加しました。シンポジウム参加者の総数は八〇名余り。全体としては台湾原住民研究を専門にする日本人研究者と大学院生が中心でしたが、それだけではなく、関連分野の研究者、台湾原住民に関心を寄せる日本の一般参加者、台湾からの参加者、台湾出身の留学生、さらには日本に住む台湾原住民の方も見受けられました。研究発表をした台湾の大学院生がほとんど台湾原住民であったことも特筆されるべきことです。「台湾原住民研究」の名称でこれだけの規模の国際シンポジウムが日本で開催されたのは、まちがいなく今回が初めてのことでしょう。

このシンポジウムの主旨は、副題にも示したように、これまでの台湾原住民に関する学術研究の蓄積と台湾原住民が現状において抱えているさまざまな問題との接点を探ることにありました。課題をあまり狭く絞らずに、むしろ多様な問題群があることを明らかにしながら、それらを一堂に会した各国の研究者たちが論じ合うことによって、そこから共通の理解、新しい研究への取り組みを導き出すのが目的だったわけです。台湾、日米の研究者、専門領域の異なる研究者がそれぞれ問題意識を語り、互いに認識の重なりを共有することができれば、今後の研究に裨益するところも大きいことでしょう。また、このシンポジウムでは、指導的な研究者による講演、若手を中心にした研究報告、ベテランおよび中堅によるコメントという構成を意図して採ることにしました。国や学術言語の違いだけではなく、年齢やキャリアの差をうまく織り込んで、過去の研究と現在の研究を結びつけるような議論の広がりを目指したのです。

（シンポジウムの概要より）

## ●目次

国際シンポジウムの概要

実行委員会

〔記念講演〕

台湾原住民族研究の新趨勢

林修澈（呂青華訳）

〔報告〕

台湾原住民族史研究の回顧

王雅萍（及川茜訳）

台湾原住民族の能力認定とその振興 陳誼誠（松崎寛子訳）

二月政治改革と原民会の設立 黄鈴華（久保田祐紀子訳）

拡散し束ねられる村むら…ツォウの社会実践をめぐる（二項対立同心円モデル）再考 宮岡真央子

〈部落地図〉作成運動…台湾・ブヌンの事例から 石垣直

サキザヤ族（奇萊族）の民族認定 陳俊男（及川茜訳）

大分事件 ブヌン族ダホーアリ（Dahu Ali）首謀説の真相 余明德（三浦久仁子訳）

戦後における日本統治時代の「理蕃政策」関連文献をふりかえって…日本と台湾の比較 石丸雅邦

台北州警察衛生展覧会理蕃館に於ける原住民表象の分析 石川豪

〔特別講演〕

民族学／民族誌学群は現在も有効な学問なのか 金子えりか

体裁

・A5判・並製・カバー  
・二二〇頁

定価

・二五〇〇円  
（本体価格／税別）

注 文 書

流通センター  
取扱品

地方出版

発売

風響社

TEL: 03-3828-9249

税込み

二六二五円

部

台湾原住民研究シンポジウム実行委員会編

台湾原住民研究

——日本と台湾における回顧と展望

ISBN4-938718-65-0 C3039 ¥2500E

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一四一九  
電話〇三（三八二八）九二四九  
http://www.fukyo.co.jp

〔お客様控え〕

ご氏名  
ご住所

お電話

月 日